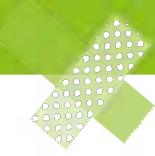


斐川地域の本



斐川地域は、斐伊川が生成した出雲平野の東部に位置し、県内随一の豊かな穀倉地帯を形成しています。春にはカラフルなチューリップのじゅうたんが広がり、築地松のある農家が平野に点在する散居村の景観は、山陰を代表する風物詩として、広く知られています。

農業を基幹産業とする斐川町ですが、島根県の空の玄関口、出雲空港を擁し、また近年ハイテク企業の進出によって、先端技術産業の一大集積地として新たな町に変貌しつつあります。

さらに、一方では国内最大の青銅器出土地、荒神谷遺跡が発見され、女性に人気の日本三美人湯のひとつ、湯の川温泉もあるなど、文化の薫り高い地域でもあります。

歴史文化遺産に恵まれ、斐伊川とともにあるこの町は、古代と未来が響きあう出雲の原郷として、県下でも数少ない、人口が増加している活力ある地域です。



地域全体

●こうじんだにいせきのなぞぶっくれっと

荒神谷遺跡の謎ブックレット①～⑩

発行者 島根県簸川郡斐川町

出版年 平成2年（1990）～平成11年（1999）

歴

昭和59年7月の358本の銅剣、翌年の銅鐸6個・銅矛16本という日本考古学史上最大の青銅器発見を契機に、平成2年から平成11年までの10回にわたり、荒神谷遺跡の謎を解く論文・アイデアを募集し、その成果を各回ごとに1冊にまとめたものです。



本書は、荒神谷遺跡の謎の解明を、プロの研究者だけではなく、いわゆるアマチュアの方々の大胆かつ斬新な発想を期待し、その発表の場を提供するという考えのもとに創設されました。この画期的な企画のなかで、荒神谷遺跡の謎解きのみならず、活用方法の具体的方策までも論点とし、広く全国に呼びかけたことは、文化財を活かしたまちづくりへの大きな弾みとして意義深いことといえます。

なお、第1回から第10回までの応募総数は、1280編にも及び、うち入賞作品数は141編を数えます。

論文・アイデアのテーマは次のとおりです。

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| ①なぜ埋められたのか | ⑥荒神谷遺跡と環日本海（東海） |
| ②だれが埋めたのか | ⑦荒神谷遺跡発見の意義 |
| ③銅剣358本はどこで作られたのか | ⑧荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡
かもいわくら |
| ④荒神谷遺跡と神話 | ⑨出雲で発見された青銅器をめぐって |
| ⑤荒神谷遺跡と邪馬台国 | ⑩荒神谷遺跡とまちづくり
かんば |

なお、荒神谷遺跡については、『荒神谷遺跡』(同成社) や『出雲神庭荒神谷遺跡』(島根県教育委員会)などがあります。

● しょうばられきしきものがたり

莊原歴史物語

著者名 池橋達雄 編著

発行者 莊原公民館

出版年 平成16年(2004)

歴

莊原公民館の文化活動のひとつとして、古代と未来が響きあう莊原地区の歴史を調査研究し、一冊にまとめたものです。

本書は、史料の収集・調査・研究に多大な労力と時間を費やし、平成8年から8年の歳月をかけて完成した貴重な地域史です。

荒神谷遺跡発見以来の多くの考古学の研究成果をはじめ、中世の杵築大社の文献紹介、近世の絵画資料の最新成果を盛り込むとともに、莊原に生まれ育った編著者ならではの視点から編集した郷土誌として、注目すべき一冊といえます。



● しまねけんひかわぐんしゅつとうそんし

島根縣簸川郡出東村誌

著者名 足立源次郎 編

発行者 出東村尋常高等小学校

出版年 昭和3年(1928)

歴

昭和御即位大典を記念して編纂された村誌です。

本書は、地文・人文・雑篇で構成されています。その多くは人文に割かれており、産業・戸口・交通運輸通信・教育・社寺及び宗教など八章にわけ、かなり体系的にまとめられています。

また、統計資料を多用して具体的に説明しているほか、たとえば出雲国造人名表、国司人名表などにみられるように、資料的価値も持ち合わせていることが、本書の特長といえます。さらに、雑篇では、斐伊川変遷について記載するなど、地域的な特性も取り上げています。

● ひさぎそんし

久木村誌

発行者 安食良三郎

出版年 大正13年(1924)

歴

皇太子殿下御成婚記念として発刊された村誌です。

本書は、久木村についてはじめてまとめられた図書で、近世以前についてはほとんど記載はありませんが、明治・大正期における久木村の村勢について知るうえで貴重な郷土誌です。また、村歌や尋常小学校校歌などもあるほか、巻頭には、久木村役場などの懐かしい写真も多く掲載され、当時を偲ぶことができます。

●ふおとなおえひやくねん めいじ・たいしよう・しょうわ・へいせいのしゃしんしゅう

フォト直江 [100年] 明治・大正・昭和・平成の写真集

発行者 フォト直江刊行委員会

出版年 平成8年（1996）

写歴

平成6年度に開催した「フォト直江明治・大正・昭和」のパネル写真展の好評を受けて、一冊の写真集として発刊したものです。

この写真集は、平成2年から4年間にわたり公民館報に掲載した往古の写真のほか、さらに多くの懐かしい貴重な写真と、平成の情景をも加え、直江の100年の移り変わりを記録・編集しています。

また本書は、大きく変わった景観、川の変遷、思い出深い学び舎、など8項目に分け、さらに巻末には、明治以降を、行政・財政・機構、産業基盤、教育・文化・保健福祉・等、に3区分した年表を載せ、時代の流れを暦年で記録しています。

●いづもくうこうこうじし

出雲空港工事誌

著者名 出雲空港工事誌編集委員会 編

発行者 島根県

出版年 平成5年（1993）

技

昭和31年に、1200m滑走路を有する第3種空港として開設された、島根県の空の玄関、出雲空港の拡張整備にかかる工事をまとめた一冊です。

本書は、昭和60年に着手以来、8年を要した、滑走路延長工事、エプロン及び誘導路の拡張などの整備工事記録です。工事は、埋立面積と同面積の代替水面の問題をはじめ、漁業補償、超軟弱湖底地盤など幾多の困難な課題を一つひとつ克服して、平成5年3月に供用開始となりました。

出雲空港整備拡張工事を記録した極めて専門的な大冊ですが、巻末の資料編の「出雲空港整備に関する経過」や、「新聞記事で綴る空港建設の歴史」を読むと、計画から工事実施までの概要を、わかりやすく辿ることができます。

●ごうどいのすけおういちょうしゅう

神門猪之助翁遺著集

著者名 斐川村史談会 編

発行者 斐川村教育委員会

出版年 昭和37年（1962）

歴

農業のかたわら、73才で亡くなるまで、郷土斐川について精力的に調査研究を続けた著者の追悼遺著集です。

本書は、元出東郡誌をはじめ、久木村郷土史・直江村史・斐川村の発足を祝して・斐川村の城跡の、明治42年から昭和30年にわたる5篇の著作・編集のほか、神門家から寄贈された多くの図書を網羅した神門文庫（斐川村所蔵）の書名一覧を所収しています。

おかげじゅう

また、巻末には、著者と親交の深かった岡義重氏の「神門翁を語る」と題した回顧録があり、郷土斐川についての先駆的な研究成果の顕彰とともに、その業績を「一世の模範と仰がれ、後世に銘記されねばならぬ篤農・篤学・篤信の権化」と讃えています。

●きょうどひかわものがたり

郷土斐川物語

著者名 岡義重

発行者 斐川町有線放送電話協会

出版年 昭和51年（1976）

歴

斐川町合併10周年を記念して、昭和40年から1年間有線放送された原稿をもとに、著者の一周忌に発刊されたものです。

本書は、斐川町に生まれ、生涯のほとんどを斐川町で過ごし、在野の郷土史家として文化財や民俗学に造詣の深い著者が、郷土斐川の埋もれた歴史や庶民行事などを幅広く、かつ端的にわかりやすくまとめて収録した貴重な記録です。斐川について知るには、年を経ても色褪せない珠玉の一冊といえます。

なお、著者が収集した斐川町中央公民館郷土資料室所蔵の民俗資料が島根県指定文化財に指定されたのを記念して、斐川町教育委員会からB6判をA5判に改めた復刻版が平成8年に発刊されています。

●ひかわとがくどうしゅうだんそかい にじゅういっせいににつたえたいきちょうなしうげん

斐川と学童集団疎開 二十一世紀に伝えたい貴重な証言

著者名 星野美枝 佐々木芳正 編

発行者 斐川町 出版年 平成13年（2001）

社

斐川町合併45周年記念事業の一環として発刊された一冊です。

本書は、幼い子どもたちを巻き込んだ集団疎開という、戦争の悲惨な出来事を風化させないため、貴重な証言を記録に留めたものです。

^{ほりえ} 大阪市の堀江国民学校などの学童集団疎開の実態や、当時の学童・教師の思い出と記録、疎開地斐川の人びとの思い出を、懐かしい写真も折り込みながら綴っています。大阪の学童たちの、けなげにも生き抜こうとしている姿や、重責を背負った教師たちの苦悩する有様は、副題にもなっているように、21世紀に伝えたい貴重な記録といえます。

●ひかわのちめいさんぽ

斐川の地名散歩

著者名 池田敏雄

発行者 斐川町役場

出版年 昭和62年（1987）

歴

「広報ひかわ」に昭和59年8月から36回にわたって連載した「斐川の地名散歩」のすべてを、一冊の本としてまとめ発刊したものです。

本書は、古代出雲びとの原郷にふさわしい、主として中世以前から町内に残されてきたと思われる由来伝承にかかる地名をとりあげています。

最も斐川をよく知る著者が、やさしくかつわかりやすく語りかける文面は、深い学識と郷土斐川を愛する思いに溢れ、斐川の歴史と文化を知るうえで欠かすことのできない好著といえます。なお、平成10年の荒神谷遺跡出土青銅器の国宝指定にあわせて、これに関する記述やいくつかの補訂をした補訂版が平成11年に発刊されています。

●ひかわのぶつぞう

斐川の仏像

発行者 斐川町教育委員会

出版年 昭和60年(1985)

芸

斐川町内の仏像について、斐川町教育委員会が実施した悉皆調査の調査報告書です。

本書は、斐川町内50ヶ寺に安置されているすべての仏像を対象に、昭和59年、昭和60年にわたって行われ、地方の仏師が心魂をかたむけて彫った文化財的価値のある貴重な仏像も数多く発見されています。

仏像は、91軀の個別写真に簡単な説明を加えているほか、永徳寺観音堂の十一面觀音立像ほか6寺社の8軀の仏像を紹介し、専門家による詳しい解説が記されています。

小冊子ですが、市町村段階では県内でも初めての仏像の悉皆調査の記録として、画期的な意義ある報告書といえます。

●いづものみんようしゅっさいがま

出雲の民窯出西窯

著者名 多々納弘光

発行者 ダイヤモンド・ビッグ社

出版年 平成25年(2013)

芸

出西窯の創業以来、経営の中心を担ってきた著者が、創業60周年を迎えるにあたり、共同体の軌跡を著した一冊です。

本書は、戦後まもなく、実用の陶器をつくる出西窯を起こした素人の5人の仲間が、柳宗悦、河井寛次郎、濱田庄司、バーナード・リーチといった民藝運動の師父たちに出会い導かれて、志をひとつに共同・協働の基本理念を貫きながら、島根県を代表する民窯に育っていく姿を描き出しています。

淡々と語りかけるやさしい口調のなかにも、強い信念と飾り気のない真摯な姿勢が文面に溢れ、地方での単なる焼きものづくりを超えた理念を感じさせる著作です。

なお、巻末には、出西窯の辿ってきた「年表」と、「出西窯を導いた人々」として15人の名前と略歴を載せています。

●ついじまつものがたり

築地松物語

著者名 エムシー・スクエア 編

発行者 斐川町総務課

出版年 平成5年(1993)

社

出雲平野の風物詩として全国的に有名な築地松の景観を、もう一度見直し、この祖先からの宝を後世に残したいとの強い思いから発刊された冊子です。

本書は、大きな活字で印刷され、また写真や図表も多用され、さらに総カラー印刷のため、理解し易く、見易い工夫がなされた啓発書といえます。

築地松の歴史・屋敷構えと景観・築地松のある暮らし・築地松の効用・築地松を守る、の5章で構成され、専門家がわかりやすく解説しています。また、巻末には、資料として、築地松にみられる植物・いろいろな木の種類・斐川地域の農業のうつりかわり、のほか、築地松景観見学コースの地図を付け、理解の手助けをするなど、やさしい編集となっています。

なお、築地松については、有田宗一『築地松と民家』ふるさと斐川探訪シリーズ2（平成3年）のほか、詳しい専門書として、三宅登『出雲の築地松』（平成2年）などがあります。また、映像資料としては、築地松景観保全対策推進協議会『陰手刈り職人の技』（平成12年）があります。

●きよぼくめいぼくめぐり

巨木・名木巡り

著者名 有田宗一

発行者 斐川町教育委員会

出版年 平成3年（1991）

産

貴重な文化財を大切に保存・保護し、広く一般に公開・活用する方針のもとに発刊された、「ふるさと斐川探訪シリーズ」の創刊号です。

本書は、昭和63年度に実施された環境庁の巨樹・巨木林調査をもとに、「阿吾神社のタブノキとオガタマノキ」をはじめ古い社寺林を中心に20の巨樹・巨木を紹介しています。

簡潔で要領を得た解説と、鮮明な写真で構成され、すっきりとしていて読み易い編集となっています。なお、「ふるさと斐川探訪シリーズ」としては、同書のほかに『築地松と民家』『まつり』『染めと織り』『書・画』の4冊があります。

●えすみやすものがたり

「江角ヤス」物語

著者名 村上家次

発行者 斐川町教育委員会

人 哲

出版年 平成7年（1995）

斐川町に生まれ、多感な少女時代をこの地で過ごし、今は長崎に眠る江角ヤスの生涯を、町内の子どもたち、大人の方にも知ってもらいたいとの思いから発刊された一冊です。

本書は、斐川町立中部小学校が県・町の福祉教育研究指定校になったことを契機として、大きな功績がありながら今まで町内や県内ではあまり知られていないかった江角ヤスにスポットをあて、教育や福祉に一生を捧げたその生き方を伝記風に綴っています。

後段の後述記には、さらに江角ヤスを理解するために、本人の言葉や、近い人の回想などを載せるほか、付録として略年譜などを記しています。

●ちきゅうのひみつ

地球の秘密

著者名 坪田愛華

発行者 斐川町教育委員会

出版年 平成3年（1991）

技

1991年に12歳で亡くなった著者が、亡くなる直前に、環境問題について調べ表現した漫画をもとに、一冊にまとめたものです。この遺作は、全国へ、そして世界各地に感動の輪を広げ、さらに世界の各国語に翻訳され紹介されました。

本書は、地球を救い、地球の未来を問いかけるバイブルとして広く愛され、そのメッセージは、県内で毎年、ミュージカル「あいと地球と競売人」として上演され、引き継がれています。

●ひかわのねんちゅうぎょうじとべもの

斐川の年中行事と食べ物

著者名 斐川町学校給食センター 編

発行者 斐川町教育委員会

出版年 平成6年(1994)

社

斐川町の家庭に伝わる年中行事と食べ物について、多くの町民から提供された資料をもとに、一冊に編集したものです。

本書は、行事と料理(第1章)、作り伝えていきたい料理(第2章)、学校放送で子どもたちに話したこと(第3章)、子どもたちに好まれている給食献立(第4章)、昭和・平成に引き継がれた食材料(第5章)で構成されていますが、学校給食センターが編者ということもあり、第3章と第4章は子どもたちが対象になっているのが大きな特色です。

また、メインテーマの行事と料理(第1章)では、月ごとに行事・ならわしを記載したのち、料理各説では、材料・つくり方のほか、そのならわしと由来を付記しており、読者の興味をひきつける、丁寧でユニークな編集となっています。

●いずもひかわちょうのみんわとうたあそび

出雲斐川町の民話と唄・遊び

著者名 稲田浩二 畠山兆子 編著

発行者 手帖舎

出版年 平成6年(1994)

社

梅花女子大学を中心とする調査団が、平成4年7月に実施した口承文芸総合調査の成果を一冊にまとめたものです。

本書は、調査団員が斐川町に滞在し、現地で直接70人を超える伝承者の一人ひとりから採録したテープをもとに作成しています。

また、民間説話・わらべ唄と年中行事・わらべ遊びの3部で構成され、多くの挿絵や挿図を掲載しているので、わかりやすく親しみやすい内容になっています。

出雲大社平成の大遷宮

哲

出雲大社と伊勢神宮。日本を代表する悠久の伝統を受け継いだ二つの古社が、平成25年、ともに遷宮を迎えました。出雲大社は60年ぶりに行われる平成の大遷宮、伊勢神宮は20年に一度の式年遷宮として、史上はじめて重なる大きな節目の年となりました。

出雲大社の遷宮は、平成20年4月に大国主大神の御神体が御本殿から御仮殿に遷座する仮殿遷座祭が執り行なわれたのち、本殿の修造が行われました。そして、新しい檜皮に覆われ生まれ変わった本殿に蘇った御神体がお環りになる本殿遷座祭は、平成25年5月に厳かに執り行われました。

一方、出雲大社東苑特設ステージでは、本殿遷座祭を祝した、神楽をはじめとする伝統芸能やコンサートなど数多くの奉祝行事が盛大に開催されたほか、古代出雲歴史博物館では、「平成の大遷宮出雲大社展」が華々しく催され、今まで伝えられてきた史料や宝物によって、出雲大社の悠久の歴史を紹介しています。

さらに、遷宮にあわせて、神門通りでは石畳舗装、デザイン照明工事のほか電線類も地中化され、門前町にふさわしい周辺整備が進められました。通りには新しい魅力的な店舗も数多く出店し、予想をはるかに超える参拝客で賑わっています。

<平成の大遷宮>

出雲大社平成の大遷宮

発行者 山陰中央新報社
出版年 平成25年（2013）

出雲大社平成の大遷宮

発行者 JTBパブリッシング
出版年 平成25年（2013）

平成の大遷宮

出雲大社展（展示図録）

発行者 古代出雲歴史博物館
出版年 平成25年（2013）

<出雲大社 研究書・一般書>

出雲大社

著者名 千家尊統
発行者 学生社
出版年 平成10年（1998）

出雲大社ゆるり旅

著者名 錦田剛志 中野晴生
発行者 ポプラ社
出版年 平成25年（2013）

出雲大社

著者名 千家和比古 松本岩雄 編
発行者 栄風舎
出版年 平成25年（2013）

出雲大社

著者名 浅川滋男
発行者 至文堂
出版年 平成18年（2006）
日本の美術 第476号

出雲大社の建築考古学

著者名 浅川滋男
島根県古代文化センター 編
発行者 同成社
出版年 平成22年（2010）

古代出雲大社の祭儀と神殿

著者名 桂山林繼ほか
発行者 学生社
出版年 平成17年（2005）

古代出雲大社のすべて

著者名 宝島社
発行者 宝島社
出版年 平成24年（2012）

伊勢神宮と出雲大社

著者名 三橋健
発行者 P H P 研究所
出版年 平成23年（2011）

<古事記1300年・ 出雲大社大遷宮>

大出雲展（展示図録）

著者名 京都国立博物館
古代出雲歴史博物館 編
発行者 古代出雲歴史博物館
出版年 平成24年（2012）

出雲—聖地の至宝—（展示図録）

著者名 東京国立博物館
古代出雲歴史博物館 編
発行者 古代出雲歴史博物館
出版年 平成24年（2012）